

「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

平成 24 年 8 月 20 日

所属：教育文化学部 国際言語文化課程 欧米文化選修 4 年

氏名：松本 翔

派遣先大学名：黒龍江大学（中華人民共和国）

在籍身分：交換留学生

派遣期間：約 11 カ月

渡航年月日：2011 年 8 月 26 日

帰国年月日：2012 年 7 月 18 日

○研究・学習及び今後の勉強計画

黒龍江大学は、留学生に対する中国語の教育に力を入れており、入門から上級まで、計 8 クラス用意していました。最初にクラス分けテストがあり、そのテストの結果で、どのクラスに入るのか振り分けられます。入門・初級は精読・会話・聞き取りの授業が中心で、中級・上級はその 3 つの他に映画鑑賞や中国文化、新聞講読などの難易度の高い授業を、自由に選択できるシステムでした。また、課外授業として、太極拳や中華料理、中国伝統の歌を歌う授業などもあります。

授業は毎日午前 8 時に始まります。入門・初級班の多くは午前中で授業が終わり、中級・上級班は午後まで（遅い日は 18 時半まで）授業がありました。前述のとおり、中級・上級班は自由に授業を選択できるので、自分で好きな時間割を作れます。また、各クラス 15 人前後（多くて 20 人）で、授業中は積極的に発言することを求められます。

今回の留学での体験を活かし今後の卒業研究では、中国のメディア、主に新聞について分析します。留学期間中は毎日 3 紙新聞を購読し、卒業研究に備えました。



教室の様子



クラスメートと

○生活面について

留学してすぐの頃は、全く中国語が聞き取れず、何度もつらい思いをしました。また、現地の料理や気候（冬は-30度まで下がります）、生活習慣などが合わず、体調が悪くなることも多々ありました。しかし友達の支えや、時間が経つごとに中国での生活に慣れてい



大学正門(右から2番目が筆者)

きました。

寮は非常にきれいな造りで、各部屋にトイレ・シャワーが完備され、日本のビジネスホテルと似たような環境でした。私は韓国人と二人一部屋で生活しましたが、希望すれば一人部屋にもできます。一緒に生活した韓国人は勤勉な学生で、特にトラブルなく一年間快適な生活を送ることができました。

私の生活パターンは、平日の日中は授業、夜は中国人の友達と自習。土日は野球をしたり、買い物をしたりするのが基本でした。野球は、隣の大学の野球部の練習に参加し、練習試合で知り合った人を含め、たくさんの中国人と友達になりました。バスケなり、テニスなり、何か得意なスポーツがあると、中国人の学生と交流する機会が増えるかもしれません。旅行は、時間があればできるだけするようにしました。中国国内はとても広く、少し遠くへ行ってみると、言葉(方言)も文化も生活習慣も全く違います。実際にその地で見聞きしたことは、いい経験になると思います。



野球部のみんなと

○その他留学全般にわたる感想



ハルビンの氷祭り

黒龍江大学では、例えばスキー旅行や大連などへの旅行を企画したり、運動会を開催したり、中国伝統の京劇を観に行ったりと、留学生のために多くのイベントを準備してくれます。また、日本人留学生が少ないのも魅力の一つです。留学生総数約 800 人のうち、ロシア人と韓国人で 9 割以上を占めます。逆に日本人留学生は 25 人くらいで、日本語を話す機会がとても少ないです。北京や上海などの日本人が多くいる都市で留学するよりも、“自分を追い込む”と

いう点で優れていると思います。

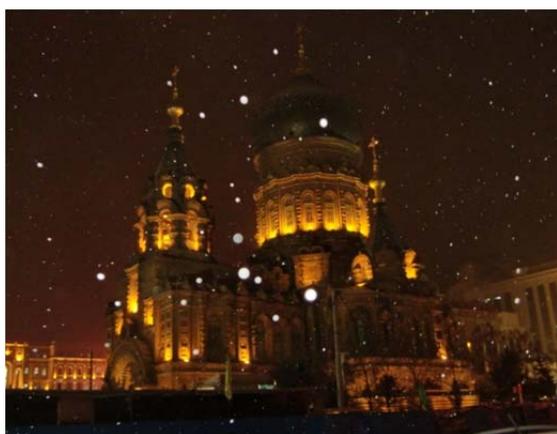
また、中国東北地方の中国語（標準語）は中国で最も美しいと言われ、留学するには最適な環境かもしれません。

黒龍江大学日本語学科の学生は日本人留学生と交流しようと、積極的に近づいてきます。私は、“相互学習（中国語で‘互学’）”という、中国人と1対1で互いに勉強する時間を多く設けるようにしました。中国語が聞き取れず授業で苦勞していた頃は、1回2時間を週に6回行い、中国人学生に授業のわからない点を質問したり、日常会話の練習をしてもらったりしました。また“互学”の学生には、生活する上で困ったときにも助けてもらい、とても心強かったです。

留学中は必死に勉強したことで、何度も自分の中国語の成長を実感しました。中国人と中国語でコミュニケーションを取れるようになったとき、ドラマの内容が理解できるようになったとき、新聞をすらすら読めるようになったときなど、自分でも驚くような早さで成長したことは、これまで感じたことのないものでした。留学中に新 HSK6 級に合格したことも自信となり、この経験や自信は今後の人生でも生きてくると思います。

これから留学する人へのアドバイスは、留学前に明確な目標を立てることです。私は、将来中国との関わりを持った仕事に就こうと考えていたので、この一年間しっかりと中国語の勉強に打ち込もうと決心して留学しました。逆に何も目標を持たず、毎日遊んでばかりいた留学生もたくさんいました。

今回の私の留学はたくさんの人たちの支えがあって成功しました。迷惑をかけた両親、留学前と留学中に何度も連絡を取り合いお世話になった学務係の谷口さん、月2回のレポート添削をさせていただいた吉永先生、支えてくれた中国人たち、そして秋田大学、携わってくださったすべての方々へ感謝したいと思います。



ハルビンのシンボル・聖ソフィア大聖堂